

教科	国語	科目	現代の国語	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校 新編現代の国語			出版社名	第一学習社	
	副教材	常用漢字クリア(尚文出版)					

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 2 論理的に考える力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めます。 3 言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養います。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 理解編 新しい出会い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容や構成、論理の構成を捉え、要旨を把握します。 ○ 常用漢字を文章の中で活用します。 ○ 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、習課題に沿って話し合います。 ○ 相手や場に応じた表現が選択できるようにします。 ○ 自分の考えが的確に伝わるように、根拠を示して説明します。 ○ 語句の量を増やし、語彙を豊かにします。 ○ 情報の探索と選択を実践します。 	中間考查
	5月 表現編 話し方の工夫		
	6月 表現編 待遇表現		
	6月 理解編 言葉が開く世界		
	7月 表現編 情報の探索と選択		
2学期	8月 理解編 人間の風景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の事例と筆者の主張との関係を理解します。 ○ 人生や生き方に触れた文章を読み、自分の意見や考えを論述します。 ○ 表現や話し方を工夫して、効果的なスピーチを行います。 ○ 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら内容を解釈します。 ○ 異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめます。 ○ 効果的なスライドの作り方を理解し、プレゼンテーションを実践します。 ○ 情報を相手に分かりやすく説明する方法を理解し、実践します。 	中間考查
	9月 表現編 スピーチで自分を伝える		
	10月 理解編 生活の中の表現		
	11月 表現編 理想の修学旅行をプレゼンする		
	12月 表現編 身近な製品の取扱説明書を作成する		
3学期	1月 理解編 社会と人間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報と情報、段落と段落の関係を理解し、本文の構成を捉えます。 ○ 動画と本文を比較して、わかったことを説明します。 ○ 依頼文と案内文の書き方を習得・実践します。 ○ 内容を理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察します。 	学年末考查
	2月 表現編 実用的な手紙文の書き方		
	3月 理解編 現代と社会		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業は必ず予習(語句の意味調べ等)をして臨みましょう。 2 定期考查に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 校内漢字テストに積極的に取り組み、基礎学力を付けましょう。		

教科	国語	科目	言語文化	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校 新編 言語文化			出版社名	第一学習社	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに言語文化に対する理解を深めます。
	2	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを深めます。
	3	言葉がもつ価値への理解を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月	日本文学編－近現代 小説を読む(一)	○ 登場人物の会話や行動に注目し、心情を読み取ります。	中間 期末 考查
	5月	日本文学編－古文 古文に親しむ	○ 歴史的仮名遣いについて理解して物語を読み取り、古典の世界に親しみます。	
	6月	漢文学編 漢文入門	○ 漢文の特色や訓読のきまりを理解し、格言を読み取ります。	
	7月	日本文学編－近現代 伝統と文化	○ 我が国の伝統文化について書かれた随筆を読み取り、自分の考えや気持ちを随筆に書き表します。	
2学期	8月	日本文学編－古文 随筆を読む	○ 古語の意味を理解して随筆を読み、筆者の考えを的確に読み取ります。	中間 期末 考查
	9月	漢文学編 故事成語	○ 故事成語の由来について読み取り、漢文と現代の言葉とのつながりについて理解します。	
	10月	日本文学編－近現代 小説を読む(二)	○ 場面ごとの心情の移り変わりを捉え、小説の面白さを読み味わいます。	
	11月	日本文学編－古文 和歌と俳諧	○ 和歌に詠まれた情景や心情を読み取り、現代の言葉に書き換えて、古典への親しみを深めます。	
	12月	漢文学編 漢詩の鑑賞	○ 漢詩のきまりについて理解し、漢詩に詠まれた情景や心情について解釈します。	
3学期	1月	日本文学編－近現代 小説を読む(三)	○ 表現に即して小説を丁寧に読み取り、ものの見方や考え方を広げます。	学年末 考查
	2月	日本文学編－古文 物語を楽しむ	○ 歌物語の特徴について理解し、和歌に着目して登場人物の心情を読み取ります。	
	3月	日本文学編－近現代 短歌と俳句	○ 短歌や俳句に表れている情景や心情を捉え、折句を用いて自分の心情を表現します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身に付いている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 授業は必ず予習(語句の意味調べ等)をして臨みましょう。 2 定期考查に備えて、計画的に学習に取り組ましましょう。 3 校内漢字テストに積極的に取り組み、基礎学力を付けましょう。
-----------	--

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	1年(普通科・園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校	新歴史総合	過去との対話、つなぐ未来	出版社名	第一学習社	
	副教材	新歴史総合ノート(第一学習社)					

学習の目標	1	世界と日本を広い視野から捉え、諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付けます。
	2	近現代の歴史の変化に関わる事項や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり説明したりする力を養います。
	3	よりよい社会の実現に向け課題を主体的に解決する態度と各国の文化を尊重する姿勢を深めます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画	
1 学期	4月	第1部 歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの身近な生活などが、世界の歴史と繋がっていることを理解します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に取り組みます。 ○ 18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ○ 欧米の市民革命などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解します。 ○ アジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響に着目し多方面から考察します。 ○ 国民国家の形成の背景などに着目し、特徴や社会の変容などを考察します。 	中間 考查	
		第2部 近現代の世界と日本			
	5月	第1章 近代化と私たち			
		第1節 18世紀のアジアの繁栄			
	6月	第2節 工業化の進展と国民国家の建設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ○ 欧米の市民革命などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解します。 ○ アジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響に着目し多方面から考察します。 ○ 国民国家の形成の背景などに着目し、特徴や社会の変容などを考察します。 	期末 考查	
	7月	第3節 結びつく世界と日本の開国			
		第4節 帝国主義とアジア諸国の変容			
2 学期	8月		<ul style="list-style-type: none"> ○ 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に取り組みます。 ○ 第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立などを基に、第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。 ○ 経済危機の背景や国際秩序の変化などに着目して、国際協調体制の動揺の要因について考察し、表現します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みます。 	中間 考查	
		9月			
		10月			第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち
					第1節 第一次世界大戦と大衆社会
		11月			第2節 経済危機と第二次世界大戦
	12月	第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済危機の背景や国際秩序の変化などに着目して、国際協調体制の動揺の要因について考察し、表現します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みます。 	期末 考查	
	1月	第3章 グローバル化と私たち			
	2月	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭			
	3月	第2節 世界秩序の変容と日本			
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 冷戦後の世界の様子を基に、国際政治の変容を理解します。 ○ 地域紛争や冷戦が各国の政治に及ぼした影響を特徴や要因から考察します。 ○ 冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みます。 	学年 末 考查	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に教科書を読むなど、授業の中で分からないことを解消させていきましょう。 2 小テストや定期考查に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 提出物は期限を守って必ず提出するようにしましょう。 		

教科	数学	科目	数学 I	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	3
教材	教科書	高校数学 I			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	式を目的に応じて変形し、見方を豊かにする。数を実数まで拡張することの意義を理解します。
	2	1次方程式や1次不等式についての理解を深め、それらを活用できるようにします。
	3	1次関数や2次関数についての理解を深め、それらのグラフを利用できるようにします。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1章 数と式 1節 整式	○単項式や多項式の次数を学習します。 ○整式どうしの足し算・引き算・かけ算を学び、指数法則や分配法則などが使えるようにします。 ○乗法公式を用いて展開します。 ○因数分解をします。	中間考查
	5月			
	6月	2節 実数	○平方根の計算規則を学習します。 ○実数の四則演算をします。	期末考查
2 学期	7月			
	8月	3節 方程式と不等式	○1次方程式を用いて文章題を解きます。 ○数や式の大小関係を不等号や数直線を利用して表し、不等式を変形して解きます。	中間 考查
	9月		○2つの不等式を共通に満たす範囲を求めます。	
	10月	2章 2次関数 1節 関数とグラフ	○関数の考え方を理解し、1次関数とそのグラフを学習します。 ○2次関数とそのグラフの特徴やかき方を学習します。 ○関数とグラフの様々な問題を解きます。	
11月				
	12月			期末考查
3 学期	1月	2節 2次関数の値の変化	○グラフを用いて最大値・最小値を求めます。 ○2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標が2次方程式の解であることを利用して共有点の座標を求めます。 ○2次関数のグラフを利用して2次不等式の解を求めます。	学年末 考查
	2月			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		数学 I における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	数や式を目的に応じて変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し、特徴を考察する力、社会の事象から設定した問題について、データに着目し、分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。
評価の方法	定期考查の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。		
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。		

教科	理科	科目	科学と人間生活	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	科学と人間生活			出版社名	実教出版	
	副教材	アクセスノート 科学と人間生活 新刊 (実教出版)					

学習の目標	1 身近に見られる科学現象と人間生活との関係に興味・関心をもつ。 2 観察・実験を通して、科学を探究する能力と態度を身に付ける。 3 科学の基本的な概念や原理・法則を理解する。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第1章 科学と技術の発展	○科学と技術の始まりについて学習します。 ○物質のなりたち、セラミックス、金属の特性、プラスチックと高分子化合物について学習します。	中間考查 期末考查
	5月 第2章 物質の科学 第1節 材料とその再利用		
	6月		
	7月		
2学期	8月 第4章 光や熱の科学 第1節 光の性質とその利用	○光の直進性と反射、光の屈折、レンズと像、光のスペクトルと電磁波、光の回折と干渉、光の偏向性について学習します。 ○自然景観のでき方、地域の自然景観、日本の自然の特徴、地震・火山のメカニズム、地震災害・火山災害と防災、気象災害と防災について学習します。	中間考查 期末考查
	9月		
	10月 第5章 宇宙や地球の科学 第2節 身近な自然景観と自然災害		
	11月		
3学期	12月	○光合成、光合成と光の色、光の強さと光合成速度、植物の生育と光、動物の行動と光、眼の構造と働きについて学習します。	学年末考查
	1月 第3章 生命の科学 第1節 生物と光		
	2月		
3月			

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験を行い、人間生活と関連付けて科学的に探求する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めようとしている。

評価の方法	定期考查の得点と授業態度、課題、ノートなどを資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 授業に集中して取り組みましょう。 2 副教材を活用し、知識の定着を図りましょう。 3 定期考查には全力で臨みましょう。
-----------	---

教科	保健体育	科目	体育	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	3
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 2 課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。 3 公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にする資質や能力を育てます。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 体づくり運動	○ 南校体操、補強運動や集団走を正確に身に付けます。	中間 考查 期末 考查
	5月	2 陸上競技	○ 集団行動を通し、協力、責任、参画に対する意欲を高めます。	
	6月	3 球技 I	○ 体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	7月	4 体育理論	○ バレーボール、ソフトボール、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
2 学期	8月	5 体づくり運動 ダンス	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	中間 考查 期末 考查
	9月			
	10月	6 陸上競技	○ 運動会の集団演技の練習を行う中で、集団の中での協調性を養います。	
	11月	7 球技 II (その①)	○ 長距離走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
12月	8 体育理論	○ バasketボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	期末 考查	
3 学期	1月	9 体づくり運動	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	学年 末 考 査
	2月	10 球技 II (その②)	○ 集団行動を通して、計画的な実践、協力、責任などに対する意欲を高めます。	
	3月	11 体育理論	○ バasketボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能が身に付いている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決方法を思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

評価の方法	授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考查の得点等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 「鍛」を目標に体力・気力の充実を図り、たくましく生きる力を身に付けていきましょう。 2 積極的に参加し、自主的に協調性をもって行動しましょう。 3 一人一人が健康と安全に留意して臨みましょう。
-----------	--

教科	保健体育	科目	保健	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	1
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	生涯を通じて自他の健康の保持増進を行うための資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画	
1 学期	4月	1 単元 現代社会と健康 1 健康のとらえ方考え方と成り立ち	○ 健康課題の変化について理解します。	中間 考查	
	5月	2 私たちの健康のすがた	○ 新たな健康観について理解します。		
		3 生活習慣病の予防と回復	○ 生活習慣病の予防と回復について理解します。		
	6月	4 がんの原因と予防	○ がんの原因と予防について理解します。	期末 考查	
		5 がんの治療と回復	○ がん治療と回復について理解します。		
		6 運動と健康	○ 運動習慣の重要性を理解します。		
	2 学期	7月	7 食事と健康	○ 食事生活の重要性を理解します。	中間 考查
			8 休養・睡眠と健康	○ 休養・睡眠について理解します。	
		8月	9 喫煙と健康	○ 喫煙の影響について理解します。	
10 飲酒と健康			○ 飲酒の影響について理解します。		
11 薬物乱用と健康			○ 薬物の影響について理解します。		
9月		12 精神疾患の特徴	○ 精神疾患の特徴について理解します。	中間 考查	
		13 精神疾患の予防	○ 精神疾患の予防について理解します。		
		14 精神疾患からの回復	○ 精神疾患からの回復について理解します。		
10月		15 現代の感染症	○ 現代の感染症について理解します。	期末 考查	
	16 感染症の予防	○ 感染症の予防について理解します。			
	17 性感染症・エイズとその予防	○ 性感染症の予防について理解します。			
	18 健康に関する意思決定・行動選択	○ 健康のために、正しい意思決定・行動選択が大切であることを理解します。			
	19 健康に関する環境づくり	○ 環境づくりの大切さを理解します。			
3 学期	1月	2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因	○ 交通事故の現状を理解します。	学年 末 考 査	
		2 安全な社会の形成	○ 運転者に求められる基本的な考え方について理解します。		
	2月	3 交通における安全	○ 交通事故を減らすためにどのような工夫がなされているかを理解します。		
		4 応急手当の意義とその基本	○ 応急手当について理解します。		
	3月	5 日常的な応急手当	○ 緊急の時の対応について理解します。		
		6 心肺蘇生法	○ 心肺蘇生法について理解します。		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

評価の方法	定期考查の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 授業で学習した内容を積極的に日常生活に取り入れるように心掛けましょう。 2 保健や健康についての新聞やニュースに気を配り、日頃から健康について関心を持つようにしましょう。
-----------	--

教科	芸術	科目	音楽 I	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	音楽 I Tutti+		出版社名	教育出版		
	副教材	特になし					

学習の目標	1 音楽の多様性について理解します。 2 音楽表現や鑑賞に必要な技能を身に付けるようにします。 3 感性を高め、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育みます。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月 オリエンテーション	○ 校歌について学習します。 ○ 発声や身体の使い方などの技能を身に付けます。	
	5月 日本歌曲を歌おう	○ 曲想を深く理解し、表現を工夫します。	
	6月 ドイツリートを歌おう	○ ドイツリートについて学び、歌詞の内容に合った歌い方を工夫します。	
	7月 アンサンブルを楽しもう	○ 他者との調和を意識したり、楽曲の特徴を生かしたりしながら、イメージをもって表現を創意工夫します。	
2 学期	8月 作曲しよう	○ 自分がつくったリズムを使って、曲を創作します。	
	9月 古の音楽に思いをはせよう	○ 雅楽の楽器の音色や奏法、楽器の構造、管弦の響きについて学習します。	
	10月 アンサンブルを楽しもう	○ 楽器の奏法を身に付けます。 ○ 自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫します。	
	11月 歌の旅に出よう	○ ドイツ語の言葉の特性や曲にふさわしい発声を意識し、イメージをもって歌唱表現を創意工夫します。	
	12月 混声合唱を美しく響かせよう	○ 表現形態の特徴を生かして歌います。	
3 学期	1月 物語と音楽との関わりに注目しよう	○ オペラやミュージカルなど総合芸術について学習します。	
	2月 世界のさまざまな音楽の魅力	○ 世界の諸民族の様々な声の音楽について学習します。	
	3月 コンサートを開こう	○ 1年間で取り上げた教材をより深く理解し、工夫してアンサンブルで表現します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解している。また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、歌唱・器楽・創作の技能を身に付けている。	音楽を形作っている要素や要素同士の間を関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えようとしている。また、どのように表すかについて考えをもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法	実技テストや発表、実技評価、鑑賞力評価等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 豊かな感性を身に付けましょう。 2 人と協力し、工夫しながらより良い音楽を作っていきましょう。 3 様々な音楽文化の良さを感じられるようになりましょう。
-----------	--

教科	芸術	科目	美術 I	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	高校生の美術 1			出版社名	日本文教出版	
	副教材	特になし					
学習の目標	1 造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表します。 2 美的体験を重ねます。 3 生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成します。						
		教材内容(単元)		学習計画・内容			考查計画
1学期	4月	オリエンテーション 絵画・鑑賞 ・植物を描く		○身近なところからモチーフを探し、観察を通して美的体験を味わいます。			
	5月			○植物の美しさや生命力を観察し表現します。			
	6月	デザイン ・色彩		○モチーフのよさや美しさを表現するための絵画技法を探究します。			
	7月	デザイン・鑑賞 ・ポスターで伝える		○色の仕組みを理解し配色理論を学びます。 ○色の三属性とPCCSについて学びます。 ○配色計画を立て効果的に表現します。			
2学期	8月			○人権について自らのメッセージをイラストと文字で構成します。			
	9月	デザイン・鑑賞 ・生活を彩る模様		○模様が持つ機能や美しさを理解し目的に合ったデザインをします。			
	10月			○1学期に制作した絵画を基に連続する文様をデザインします。			
	11月			○版画技法でスタンプを作成します。 ○リピテーション効果を理解します。			
	12月			○日常生活で使うためのテキスタイルを、模様をプリントして制作します。			
3学期	1月	彫刻・鑑賞 ・抽象彫刻で表す		○抽象立体について理解を深めます。 ○基本図形を組み合わせて感情を表現します。			
	2月			○感情を抽象立体で表現します。 ○油粘土の特性を理解し制作します。			
	3月	まとめ		○制作した作品をデジタル編集して、自分の作品のポートフォリオを作ります。			
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表現する技術を身に付けている。		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の幅広い想像活動に取り組もうとしている。		
評価の方法	授業態度や提出された作品やレポートの内容等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。						
学習へのアドバイス	1 授業中の時間を大切にし、目標をもって作品の制作や鑑賞に取り組みましょう。 2 日頃の生活の中でも、感性を働かせ、自分の思考を刺激し制作テーマを蓄えておきましょう。 3 他教科や社会の中には美術と関わるが多くあります。その意識を持って学びましょう。						

教科	芸術	科目	書道 I	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	書道 I			出版社名	教育出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てます。 2 感性を豊かにし、書写能力を高めます。 3 表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深めます。
-------	---

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	零 書之美を求めて 1 書の世界へようこそ 2 書を生活に生かしてみよう	○書道の学習を始めるにあたり、その特質や学習の全体像を把握します。 ○生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習します。	
	5月	一 漢字の書の学習		
	6月	1 楷書の学習 (1) さまざまな楷書 (2) 唐の四大家 (3) 北魏の書	○漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 ○臨書活動を通して、意図に基づく表現の基礎的な技能を身に付けます。	
	7月	2 篆刻の学習 (1) 落款について	○篆刻は書道の一分野であることを理解します。	
2 学期	8月	(2) 姓名印と文字の配列 (3) 印稿の例 (4) 刻る手順	○印面に自書自刻し、自分だけの印を作って楽しみます。 ○作品に押して作品を完成させます。	
	9月	3 行書の学習		
	10月	(1) さまざまな行書 (2) 王羲之と顔真卿の行書 (3) 日本の行書	○さまざまな行書古典を鑑賞し、行書の特徴について理解します。 ○臨書活動を通して、意図に基づく表現の基礎的な技能を身に付けます。	
	11月	4 隸書の学習	○隸書や草書に興味や関心を持ち、今後の生活に生かす能力を身に付けます。	
	12月	5 草書の学習	○多様な書体を学習することで、書について総合的な理解を深めます。	
3 学期		二 漢字仮名交じりの書の学習	○自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。	
	1月	1 言葉を表現する		
		2 感動や思いを表現しよう 3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	○漢字と仮名の調和の方法を考えて、自らの意思に基づいて表現します。	
	2月	三 仮名の書の学習		
	3月	1 仮名の世界へようこそ 2 蓬莱切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き	○平仮名の筆遣いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。 ○代表的な古筆の鑑賞と臨書により、運筆や用筆、散らし書きの基礎を学びます。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。また、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な知識を身に付けている。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

評価の方法	臨書は対象となる古典の特徴を表現できたか、創作は意図した表現に近づくことができたか、学習への参加態度等を含め観点ごとに評価し、学期末の成績は各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 自らの感性に基づき、対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 2 自分は何を表現したいのか考え、詩文を積極的に選びましょう。 3 道具の取り扱いについて、一人一人がマナーを守り、気持ちよく使用しましょう。
-----------	--

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	3
教材	教科書	Amity English Communication I			出版社名	開隆堂	
	副教材	WORD-MEISTER ワードマイスター 英単語・熟語 1700					

学習の目標	1 中学校での既習内容を復習し、基礎・基本を固めます。
	2 積極的にコミュニケーション活動を行おうとする態度を養います。
	3 日本と世界が直面する様々な課題に目を向け、物事を多面的に考える姿勢を身に付けます。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 LESSON 1 The Beautiful Scenery	○世界の魅力的な景色や、日本が誇る自然や文化について学びます。	中間 考査
	5月 Lesson 2 My Best Friend	○「ちびまる子ちゃん」を題材に、相手に寄り添うことの大切さを考えます。	
	6月 Lesson 3 Love for Dance	○ダンスには、さまざまな力や文化的な価値があることを学びます。	
	7月 Lesson 4 Endangered Species	○地球に住む絶滅危惧種の動物たちを救うために、私たちができることを考えます。	
	Lesson 5 The History of Chocolate	○身近なお菓子であるチョコレートを通し、歴史や世界への関心を高めます。	
2学期	8月 Lesson 6		中間 考査
	9月 Lesson 7 Our School	○ユニークな活動をしている日本の高校を紹介し、将来について考えるきっかけを作ります。	
	10月 Lesson 8 Serendipity	○私たちの身近に存在する予想外の発見「セレンディピティ」について学びます。	
	11月 Lesson 9 Sapeurs	○おしゃれに着飾ってファッションを楽しむ「サプール」たちの信念を学びます。	
3学期	12月 Lesson 10 Special Makeup Effects	○メイクアップ&ヘアスタイリング部門でアカデミー賞を受賞したカズ・ヒロさんの人生について迫ります。	学年末 考査
	1月 Lesson 11 Clean Water	○安全な水を世界中に届けた小田兼利さんについて知り、環境の保全について考えます。	
	2月 Reading tupera tupera	○絵本作家 tupera tupera の考えを知り、代表作「わくせいキャベジ動物図鑑」の一部を読みます。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょ。う。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしましょ。う。

教科	農業	科目	農業と環境	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	4(2)
教材	教科書	農業と環境 新訂版			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 盆栽菊の栽培を中心に、農業及び環境に関する興味、関心を高めます。 2 菊栽培を通して基本的な知識と技術を体験的、探究的に習得します。 3 一人一人が育てた盆栽菊は、11月の菊花展に出展し、地域に学習の成果を発表します。
-------	---

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1章 農業と環境を学ぶ 第1節 農業・環境学習とは何か	○ 農業と環境の関わりに気付き、農業と環境を学ぶための心構えを身に付けます。 ○ 盆栽菊の栽培管理を通して、栽培の知識や技術を身に付けるとともに、プロジェクト学習の基礎を理解します。	中間 考查
	5月	第4章 栽培のプロジェクト 第1節 農業と環境のプロジェクト		
	6月			
	7月			
2 学期	8月	第2章 暮らしと農業・農村 第2節 農業と食料 第3節 農業・農村の役割 第4節 これからの社会と農業	○ 人間社会の発展を支える農業の役割について考えるとともに、食品産業の現状を知り、食生活のあり方を考えます。 ○ 農業・農村のもつ、農産物の生産・供給以外の多面的機能と役割について学びます。 ○ 農業や農村をとりまく課題を整理し、これからの農業・農村の在り方を考えつつ、新たな農業・農村の創造に向けて、私たちが取り組むべき行動を考えます。 ○ 菊花展での展示・販売と、それに向けての展示・販売準備を行います。また、盆栽菊の栽培プロジェクトのまとめを行います。	中間 考查
	9月			
	10月	第4章 栽培のプロジェクト 第1節 農業と環境のプロジェクト		
	11月			
	12月			
3 学期	1月	第1章 農業と環境を学ぶ 第2節 農業と環境の学び方 第3節 学校農業クラブ活動	○ ミニプロジェクト活動への挑戦を通してプロジェクト学習の役割や進め方を理解します。 ○ 学校農業クラブ活動の組織や活動内容を知り、積極的に参加し、知識・技術の向上を目指します。	学年 末 考 査
	2月			
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	農業や菊栽培に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けている。作物の生育段階に応じた適切な管理方法を理解し、栽培技術を活用している。	農業や菊栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業や菊栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録やノートを継続して記入し、実習に主体的かつ意欲的に取り組む姿勢が見られる。

評価の方法	各学期の定期考查の得点、課題・小テスト・ノート、実習及び授業に取り組む姿勢や栽培物の管理状況等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 菊の栽培を中心に生き物を育てる学習を通して、農業の基礎を学びましょう。 2 農業と環境のかかわりについて学びましょう。 3 プロジェクト学習という手法を通して、課題発見・解決の力を身に付けましょう。
-----------	---

教科	農業	科目	農業と環境	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	4(2)
教材	教科書	農業と環境 新訂版			出版社名	実教出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	<p>1 植物の育成と環境の保全についての体験的、探究的な学習を通して、農業及び環境に関する学習への興味・関心を高めます。</p> <p>2 科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業と環境に関する知識と技術を体験的に習得します。</p>
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1 学期	4月	第1章 農業と環境を学ぶ 第1節 農業・環境学習とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物を育てる交流学習について体験します。 ○ 世界の農業・食料について学びます。 ○ 農業・農村の姿を学びます。 ○ 農業生産技術の特色について学びます。 ○ 農産物の流通・GAPを学習します。 ○ 有機農産物、環境保全型農業、SDGsについて学びます。 ○ イネの品種や特徴について学習します。 ○ イネの栽培について学習します。 	中間考査
	5月	第2章 暮らしと農業・農村 第2節 農業・農村と食糧供給 第3節 農業と農村の役割		
	6月	第4章 栽培のプロジェクト 第2節 イネの栽培と利用		
2 学期	7月			期末考査
	8月			
	9月	第4章 栽培のプロジェクト 第8節 ダイコンの栽培と利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダイコンの特徴や栄養について学習します。 ○ ダイコンの栽培について学習します。 ○ 管理作業について学習します。 ○ イネの収穫・乾燥・脱穀・調整について学習します。 ○ コメの品質調査について学習します。 ○ ダイコンの収穫について学習します。 ○ 炊飯について学習します。 ○ 栽培のまとめをします。 	中間考査
	10月	第2節 イネの栽培と利用		
	11月			
12月				
3 学期	1月	第3章 栽培の基礎 第1節 作物の特性としくみ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物の各部位や栽培管理作業の名称を学習します。 ○ 作物を取り巻く環境について学習します。 	学年末考査
	2月	第2節 作物をとりまく環境		
	3月			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	農業や作物栽培に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けている。作物の生育段階に応じた適切な管理方法を理解し、栽培技術を活用している。	農業や作物栽培に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業や作物栽培に関心をもち、授業態度が意欲的である。活動・観察記録やノートを継続して記入し、実習に主体的かつ意欲的に取り組む姿勢が見られる。
評価の方法	各学期の定期考査と提出物、技能・関心・意欲・態度等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	<p>1 活動・観察記録票やノートは丁寧に正確に記録しましょう。</p> <p>2 作物栽培を通して、栽培技術を理解し栽培技術を習得しましょう。</p> <p>3 作物栽培に関心をもち、身近な課題を見つけて観察・調査に取り組みましょう。</p>		

教科	農業	科目	総合実習	学年	1年(園芸クリエイト科)	単位数	4
教材	教科書	特になし			出版社名		
	副教材	特になし					

学習の目標	1	農業の各分野に関して実験・実習等の体験的な学習を通して、知識や技術を身に付けます。
	2	実際の経営・企画や管理する力などの総合的な知識・技術を身に付けます。
	3	植物栽培を中心に、栽培から加工までの幅広い知識や技術を身に付け、検定取得に挑戦します。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 草花部門 ・夏から秋の草花栽培と管理	○ 一週間ごとに、1～4の分野でのローテーション学習を行うことにより、季節の農作物の生育の様子や栽培の仕方、GAP体験等を目的に実習します。 ○ ビジネス計算実務検定取得を目指してビジネスにおける計算実務の幅広い知識を学習し、コンピュータを扱う能力を高め、技術の伸長に努めます。	期末考查
	5月	2 野菜部門 ・夏野菜の栽培管理		
		3 果樹部門 ・柑橘類の栽培管理		
	6月	4 食と健康部門 ・イネ・ダイズの栽培管理		
	7月	5 検定取得の学習		
2 学期	8月	1 草花部門 ・秋から春の草花栽培と管理 (シクラメン・パンジー等)	○ 一週間ごとに、1～4の分野でのローテーション学習を行うことにより、季節の農作物の生育の様子や栽培の仕方、GAP体験等を目的に実習します。 ○ 日本農業技術検定取得を目指して植物栽培を中心に、栽培から加工までの幅広い知識を学習します。	期末考查
	9月	2 野菜部門 ・秋野菜の栽培 (ダイコン・カブ等)		
		10月		
	11月	4 食と健康部門 ・米麦を用いた加工品の製造 (クッキー・パウンドケーキ等)		
	12月	5 検定取得の学習 ・ダイズ・イネの収穫 ・コムギの栽培		
3 学期	1月	1 草花部門 ・冬から春の草花栽培と管理	○ 一週間ごとに、1～4の分野でのローテーション学習を行うことにより、季節の農作物の生育の様子や栽培の仕方、GAP体験等を目的に実習します。 ○ ビジネス計算実務検定取得を目指してビジネスにおける計算実務の幅広い知識を学習し、コンピュータを扱う能力を高め、技術の伸長に努めます。	学年末考查
	2月	2 野菜部門 ・冬から春の野菜栽培と管理		
		3 果樹部門 ・柑橘類の収穫		
	3月	4 食と健康部門 ・圃場の準備と加工品づくり		
		5 検定取得の学習		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		栽培や加工に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、栽培管理や製造方法を正しく理解している。	栽培や加工に関して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。

評価の方法	各学期の定期考查の得点、活動・観察記録やノート、実習及び授業や農業クラブ活動に取り組む姿勢等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 植物栽培の基本と植物の利用について、実験・実習を積極的に取り組みましょう。 2 体験的な学習を通して、農産物や農業に対して親しみがもてるようにしましょう。 3 4部門を全員がローテーションで体験するので、記録をしっかりと残しましょう。
-----------	---